

教育研究業績書

2020年10月27日

所属：健康生命薬科学科

資格：助教

氏名：阿部 将大

研究分野	研究内容のキーワード
有機合成化学	ヘテロ環、アルカロイド、触媒プロセス、遷移金属触媒
学位	最終学歴
Ph. D (Chemistry)	Universite de Rouen Normandie

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 「有機化合物をつくる」, 「基礎有機化学実験」	2020年05月から現在	薬学科2年次、健康生命薬科学科2年次学生対象の本講義において、新型コロナウイルスの影響により実験室での実習が困難であるため、ビデオによる遠隔授業を行う。リモートでの課題の提出により、講義内容の定着を目的としたフィードバックを行う。
2. 卒業研究 I、卒業研究、早期卒業研究	2020年04月01日から現在	健康生命薬科学科3年次及び4年次、薬学科4年次学生対象の本講義において、新型コロナウイルスにより研究室での実験指導が困難であるため、有機合成に関する演習問題を作成し、遠隔で添削指導を行っている。
2 作成した教科書、教材		
1. 演習 1-6 (薬化学 II ver.)	2020年04月から	有機化学合成に関する演習問題 6 回分を作成した。本演習は、新規研究室配属者向けに作られており、講義で使われている「ソロモンの新有機化学I, II」の内容の確認と発展的内容の演習を含んでいる。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. Universite de Rouen Normandie, Ph.D course及び博士研究員	2016年04月2020年03月	Dr. Michael de Paolis 研究室にて「天然物アルカロイド Koumine の全合成およびアルキンのプレンステッド酸に対する反応性」に関する研究に従事。
4 その他		
1. 危険物倉庫・廃棄物管理委員	2020年04月から	拝命

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. La Lettre du FJS	共	2017年04月01日	La Lettre du FJS No. 26	Interview on research life: a Japanese student working in France and a French post-doc working in Japan. (Masahiro Abe, C. Rentier, J. Royer)
2 学位論文				
1. Reactivity of arylogous ynoleters and ynamines in hydroamination reactions. Study toward the enantioselective synthesis of koumine.	単	2019年05月	Universite de Rouen Normandie	天然物アルカロイド Koumine のエナンチオ選択的な全合成およびアルキンのプレンステッド酸に対する反応性に関する博士論文。
3 学術論文				
1. H-bonding vs Protonation of Alkynes in Regioselective Hydroamination Reactions: A Glimpse into the Reactivity of Arylogous Ynolethers and Ynamines (査読付き)	共	2019年11月	The Journal of Organic Chemistry 2019, 84 (23), 15448-15475. (査読付き)	強酸に対するアリログスアルキンの反応性について論じた。(Masahiro Abe, Alexandre Jean, Jerome Blanchet, Jacques Rouden, Jacques Maddaluno and Michael De Paolis*)
2. Development of Madelung-type Indole Synthesis Using Copper-Catalyzed Amidation/Condensation Strategy (査読付き)	共	2016年03月	Heterocycles, 2016, 92(5), 900-909. (The Japan Institute of Heterocyclic Chemistry)	銅触媒によるアミド化反応を用いたインドール合成について論じた。(Masahiro Abe, Charline Denneval, Kanako Nozawa-Kumada, and Yoshinori Kondo*), Highlighted in Synfacts 2016, 12(06), 574. にて紹介された。
その他				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. シリルボランを用いたカルバゾール合成法の開発	共	2015年11月	第45回複素環化学討論会（早稲田）	Masahiro Abe, Kanoko Kumada and Yoshinori Kondo
2. Development of Deoxygenative Cyclization of 2-Nitrobiphenyls by Silylborane	共	2015年08月	Tohoku UniversityCampus Asia SummerSchool 2015（仙台）	Masahiro Abe, Kanoko Kumada and Yoshinori Kondo (Poster award)
3. シリルボランを用いた2-ニトロビフェニル類の分子内C-Hアミノ化反応の開発	共	2015年03月	日本薬学会第135年会（神戸）	阿部 将大, 熊田佳菜子, 根東 義則
4. 銅触媒アミド化反応によるワンポットインドール合成の開発	共	2014年11月	第40回反応と合成の進歩シンポジウム（仙台）	阿部 将大, 根東 義則
5. 銅触媒を用いた新規 Madelung 型インドール合成の開発	共	2014年10月	第53回日本薬学会東北支部大会（磐城）	阿部 将大, 根東 義則
6. 銅触媒芳香族アミド化反応によるワンポットインドール合成法の開発	共	2014年09月	第44回複素環化学討論会（北海道）	阿部 将大, 根東 義則
7. Development of One Pot Indole Synthesis via Cu-Catalyzed Amidation/Intramolecular Condensation	共	2014年08月	Tohoku UniversityCampus Asia SummerSchool 2014（仙台）	Masahiro Abe and Yoshinori Kondo
8. Development of One Pot Madelung Type Indole Synthesis via Cu-Catalyzed Amidation/Intramolecular Condensation	共	2014年07月	第26回有機金属化学国際会議 (ICOMC2014)（札幌）	Masahiro Abe, Kiyofumi Inamoto and Yoshinori Kondo
9. Madelung 型インドール合成の触媒的閉環プロセスの開発	共	2014年03月	日本薬学会第134年会（熊本）	阿部 将大, 稲本 浄文, 根東 義則
3. 総説				
1. シンコナアルカロイド合成の新展開	単	2020年4月	Review de Debut 2020年 78 巻 4 号 p. 350-352 (有機合成化学協会)	近年のシンコナアルカロイド合成についてまとめた総説.
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 研究費の取得状況				

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2019年05月から2020年03月	LabFact member (HP: https://www.labfact.eu/)
2. 2016年04月から2019年04月	Academie des Sciences, Fondation des Substances Naturelles (3年間、給与型)
3. 2015年08月	Poster award: Tohoku University's Chemistry Summer School 2015, Sendai